

令和 5 年

第 8 回 定 例 教 育 委 員 会

我孫子市教育委員会

令和5年第8回定例教育委員会日程

日 時 令和5年8月23日（水） 午後2時から

場 所 教 育 委 員 会 大 会 議 室

日程第1 会議録署名委員の指名
中村 通宏

日程第2 議 案

議案第1号 我孫子市湖北地区公民館指定管理者選考委員会委員の委嘱
について (生涯学習課)

議案第2号 我孫子市指定文化財の指定について (文化・スポーツ課)

日程第3 諸 報 告

目 次

議案第 1 号 我孫子市湖北地区公民館指定管理者選考委員会委員の委嘱について	・ ・ ・ ・ 1
議案第 2 号 我孫子市指定文化財の指定について	・ ・ ・ ・ 3

議案第 1 号

我孫子市湖北地区公民館指定管理者選考委員会委員の委嘱について

我孫子市湖北地区公民館指定管理者選考委員会委員を次のとおり委嘱する。

令和 5 年 8 月 2 3 日提出

我孫子市教育委員会

教育長 丸 智 彦

提案理由

我孫子市湖北地区公民館指定管理者選考委員会委員の任期満了に伴い、我孫子市湖北地区公民館指定管理者選考委員会要綱第 3 条及び第 4 条の規定に基づき、我孫子市湖北地区公民館指定管理者選考委員会委員を新たに委嘱するため、提案するものです。

我孫子市湖北地区公民館指定管理者選考委員会委員候補者

委嘱期間 令和5年10月1日から令和8年9月30日

委嘱年月日 令和5年10月1日

委嘱人数 6人

No.	選出区分	氏名	所属等	備考
1	第1号 委員 (施設利用者代表)	田中 玲子	市民活動団体	新任
2		依田 牧子	文化団体	再任
3	第2号 委員 (学識経験者)	中島 幸司	元社会教育委員	再任
4		森 勝志	税理士	再任
5	第3号 委員 (市の職員)	小池 博幸	市民協働推進課課長	再任
6		須田 隆弘	財政課主任	再任

議案第 2 号

我孫子市指定文化財の指定について

我孫子市文化財の保護に関する条例第 4 条第 1 項の規定により、次のとおり我孫子市指定文化財に指定する。

令和 5 年 8 月 2 3 日提出

我孫子市教育委員会

教育長 丸 智 彦

提案理由

市内に所在する重要な文化財として、下ヶ戸貝塚出土品を我孫子市指定文化財に指定するため、提案するものです。

本件の指定については、令和 5 年 7 月 2 0 日に開催された我孫子市文化財審議会に諮問し、令和 5 年 7 月 2 0 日付けで答申されました。

我孫子市第22号指定文化財

1 種 別

有形文化財（考古資料）

2 名 称

下ヶ戸貝塚出土品一括

3 所在地

我孫子市教育委員会

4 所 見

別紙調書参照

下ヶ戸貝塚出土品 指定調書

1) 種別

有形文化財 (考古資料)

2) 名称および員数

下ヶ戸貝塚出土品一括

3) 所在地

我孫子市教育委員会

4) 年代

縄文時代

5) 所見

下ヶ戸貝塚(当初、下ヶ戸宮前遺跡とされていた地点を含む)は我孫子市のほぼ中央部、下ヶ戸字宮前 737 番地ほかに所在する主に縄文時代後期から晩期にかけて営まれた遺跡である(図 1)。

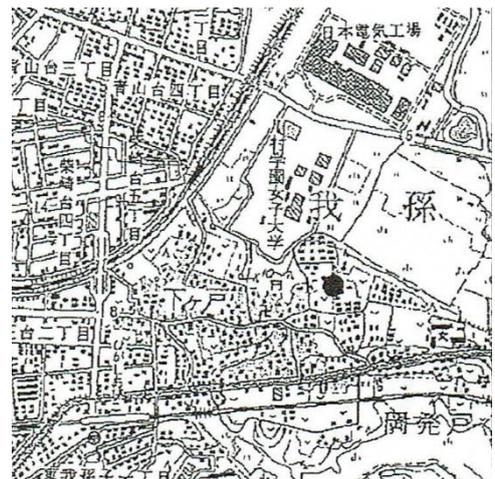


図 1 下ヶ戸貝塚の位置

本貝塚は北に利根川を望む標高 16~17m の台地上に位置し、汽水域に生息するヤマトシジミを主体とした地点貝塚が半円状に点在している。(図 2)



図 2 貝塚分布図

1981(昭和 56)年から 2015 (平成 27) 年まで 11 次にわたって、おこなわれた発掘調査によって縄文時代後期の堀之内 1 式期から晩期安行 3c 式期にかけての住居跡 20 軒、同時期と認められる土坑 31 基が検出された。

縄文時代晩期には気候の寒冷化に伴って遺跡数が減少する。特に関東地方でこの傾向が著しく、我孫子市域でもこの時期に集落が確認されるのは、この下ヶ戸貝塚のみである。

通常、縄文時代の遺跡からの出土品は直接生業にかかわる道具が殆どを占めるが、それ以外に祭祀や儀礼にかかわる道具や装飾品といった精神文化にかかわる道具類が含まれることがある。小林達雄氏(國學院大學名誉教授)は前者を第一の道具、後者を第二の道具と呼んだ。

下ヶ戸貝塚出土品の特筆すべき特徴はこの第二の道具が豊富なことである。千葉県内には 5000 カ所を超える縄文時代の遺跡が存在するが、この第二の道具を豊富に出土する遺跡は極めて稀である。

下ヶ戸貝塚出土品にみられる第二の道具を具体的に見てゆくと祭祀・儀礼用具として注口土器、特殊土器、土偶、動物型土製品、土版・岩版、石剣・石棒、独鈷石など、そして装身具として耳飾、垂飾品、貝輪などがあげられる。

そのいくつかを紹介する。特殊土器とは、煮炊きや貯蔵といった実用に供したとは考えられない小型(ミニチュア)土器、手燭形土器、異形台付土器の総称である。何らかの祭祀または儀礼に使われたものと考えられる。

土偶は県内で 4 番目に多い 210 点が出土しており、東北地方の影響を受けた遮光器土偶、加曾利 B 式期に盛行する山形土偶、関東地方に多いミミズク土偶などバラエティに富む。土偶は一般的には破片の状態バラバラに出土することが多いが、本遺跡のミミズク土偶は完形に近く復元されており貴重である。また、縄文時代の土偶はほとんど女性を表しているが、男性の土偶が出土したのは極めて珍しいことである。

土版は 70 点、少なくとも 55 個体分が出土しており県内最多である。隅丸長方形の短辺のコーナー付近に対になった孔が開けられているものがみられ、紐を通して吊り下げられた可能性がある。表面に人面が描かれた人面付土版は特に貴重である。用途としては護符としてまたは祭祀にかかわって用いられたと思われる。

石剣・石棒は縄文時代中期に数多く作られた石棒に比べ小型化しており、ほとんどは割れた状態で出土する。多数の石剣・石棒が見つかる住居跡と全く発見されない住居跡がある点は興味深い。用いられた石材には頁岩系と粘板岩系があり十字架状、格子状の刻線文が付されるのは頁岩系である。

装身具としては環状または円盤状の土製耳飾が 503 点と数多く出土している。土偶に表現された装着の様子から現代のピアスと同様に耳たぶに孔を開け装着したものである。直径約 1 cm から 8 cm まで様々な大きさのものがある。現在も同様な耳飾を使用している民族の例を見ると、人々は始め小さな孔を開け装着し、段々孔を大きくして次第に径の大きなものを装着するといったことがおこなわれている。出土した耳飾の大きさにバラエティがあるということは、当時の人々もそのような使い方をしてきた可能性が考えられる。

玉類は土製、貝製、石製とさまざまな材料のものがあり、形態も勾玉・白玉・小玉などさまざまである。特に最も数量が多い石製の玉については、製品に加え未製品や原石及び細片が多数出土していることから集落内において玉類の製作がおこなわれていたと考えられる。またヒスイの原石と玉が出土している点も注目に値する。縄文時代に流通していたヒスイの産地は新潟県糸魚川市の姫川に限られるので、現地との間に何らかの流通ルートが存在したことが分かる。

注目すべき骨角器としてシカの角製の叉状角器とニホンオオカミの骨製の垂飾がある。

前者はシカの左角を利用し、類品にみられる穿孔はないが二条の刻線が巡っている。紐を結んで垂下して使用したものと考えられる。後者はニホンオオカミの左下顎骨に孔をあけた垂飾である。小原巖氏(国立科学博物館)の鑑定によると 5 才位の老体とのこと。縄文時代におけるニホンオオカミの骨の出土例は 100 カ所近いが、このように加工して製品とされた例は極めてまれである。両者とも何らかの儀礼に使われた可能性が高い。

3000 年以上前の先人の高度な精神文化の存在を示すこれらの出土品は、学術的価値が高く我孫子市の歴史をたどる上からも貴重な存在である。また、当該年度に発表された発掘調査成果のうち注目される遺跡を、文化庁が選定し行う展覧会「発掘された日本列島 2021」に下ヶ戸貝塚出土品が取り上げられた

ことから、本資料が全国的にも貴重なものであることが分かる。

以上のことから下ヶ戸貝塚出土品を我孫子市の文化財に指定し保護・活用を図り後世に伝えていくことが相応しいと考え、比較的遺存状態が良いものを中心に 240 点を我孫子市指定文化財として選定した。

(参考文献)

我孫子市教育委員会 1983「下ヶ戸貝塚」『我孫子市埋蔵文化財報告書 第3集』

我孫子市教育委員会 1984「下ヶ戸貝塚」『我孫子市埋蔵文化財報告書 第4集』

我孫子市教育委員会 2010『平成 21 年度市内遺跡発掘調査報告書 下ヶ戸貝塚
第 8 次 別当地遺跡第 21・22・23 次』我孫子市埋蔵文化財調査報告第 42 集

我孫子市教育委員会 2014『下ヶ戸貝塚Ⅰ 下ヶ戸宮前遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
我孫子市埋蔵文化財報告書 第 48 集

我孫子市教育委員 2015 『下ヶ戸貝塚Ⅱ 下ヶ戸宮前遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
我孫子市埋蔵文化財報告書 第 50 集

我孫子市教育委員 2016『下ヶ戸貝塚Ⅲ 下ヶ戸宮前遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
我孫子市埋蔵文化財報告書 第 52 集

我孫子市教育委員会 2016「下ヶ戸貝塚第 10 次調査」『平成 27 年度市内遺跡発
掘調査報告書』我孫子市埋蔵文化財報告書 第 54 集

我孫子市教育委員会 2017『下ヶ戸貝塚Ⅳ 下ヶ戸宮前遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
我孫子市埋蔵文化財報告書 第 55 集

我孫子市教育委員会 2018『下ヶ戸貝塚Ⅴ 下ヶ戸宮前遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
我孫子市埋蔵文化財報告書 第 58 集

我孫子市教育委員会 2019『下ヶ戸貝塚Ⅵ 下ヶ戸宮前遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
我孫子市埋蔵文化財報告書 第 60 集

我孫子市教育委員会 2020『下ヶ戸貝塚Ⅶ 下ヶ戸貝塚第 2 次・第 3 次発掘調
査報告書』我孫子市埋蔵文化財報告書 第 62 集

我孫子市教育委員会 2021『下ヶ戸貝塚Ⅷ 下ヶ戸貝塚第 5 次・6 次・7 次・
9 次・11 次発掘調査報告書』我孫子市埋蔵文化財報告書 第 64 集

我孫子市教育委員会 2022『下ヶ戸貝塚Ⅸ 写真図版編』我孫子市埋蔵文化財
報告書 第 66 集

我孫子市教育委員会 2022『下ヶ戸貝塚X 総括報告書』我孫子市埋蔵文化財報告書 第67集

石田守一 2000「266 下ヶ戸宮前遺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古1(旧石器・縄文時代)』千葉県資料研究財団

石田守一 2005「第2章第4節 下ヶ戸宮前遺跡」我孫子市史編纂委員会原始・古代・中世部会編『我孫子市史 原始・古代・中世編』

岡村眞文ほか 1984「下ヶ戸貝塚」『我孫子市埋蔵文化財報告第4集』我孫子市教育委員会

杉山絢 2010 「デザインからみる縄文時代後晩期の土製耳飾りー千葉県我孫子市下ヶ戸宮前遺跡の事例からー」筑波大学先史学・考古学研究 第21号

手嶋秀吾 2022「下ヶ戸貝塚」文化庁編『発掘された日本列島 2021』共同通信社

堀越正行他 1992『堀之内貝塚資料図譜』市立市川考古博物館

<調査年度>

1980 下ヶ戸宮前遺跡 住居跡 20軒、土坑 512基、

1982 第1次 土器(堀之内)

1983 第2次 土坑(後晩期)3基 縄文土器

第3次 縄文土器

第4次 住居跡(晩期安行)1軒、土坑(後晩期)13基

1995 第5次 土器(後晩期)

1998 第6次 土器(後期)

1999 第7次 土器(後期)

2009 第8次 土器(後晩期)

2010 第9次 土器(後期)

2015 第10次

第11次 土器(後期)

指定リスト

P 数と図版番号は『下ヶ戸貝塚IX 写真図版編』の図版目次による

注口土器 3点

『報告書 I』

P15 図版 14 図 40-353

『報告書 VII』

P172 図版 21 図 112-1392・1393

小型(ミニチュア)土器 17点

『報告書 IV』

P112 図版 1 図 2-1~3・8・12・14・16~18, 図 3-26・30、図 4-65・66、図 5-72・73・76・77

手燭形土器 1点

『報告書 IV』

P113 図版 2 図 6-1

異形台付土器 7点

『報告書 IV』

p113 図版 2 図 8-2

p114 図版 3 図 8-3~5、図 12-63~65

蓋 1点

『報告書 IV』

P114 図版 3 図 13-1

土偶 26点

『報告書 IV』

p115 図版 4 図 15-7、図 16-21、図 17-30・31・36・37、図 18-46

p116 図版 5 図 18-47、図 20-70・71・75、図 21-84、図 22-98・102~104、
図 23-115

p117 図版 6 図 24-116、図 25-127、図 27-153

写真無し 図 25-128(男性土偶)

『報告書 VII』

P179 図版 28 図 164-1、図 165-2

『報告書 VIII』

p200 図版 19 図 115-17

p201 図版 20 図 115-18・19

動物型土製品 3点

『報告書 IV』

p117 図版 6 図 29-2~4

土版・岩版 15 点

『報告書Ⅳ』

P118 図版 7 図 30-1、図 31-6・8

P119 図版 8 図 32-17、図 33-18・23、図 35-33・36、図 36-43

P120 図版 9 図 37-45・48・50、図 38-49・52

『報告書Ⅵ』

P179 図版 28 図 165-4

石剣・石棒 39 点

『報告Ⅴ』

P144 図版 19 図 168-6・17・19、図 169-18・24・25・29・31・32、図 170-41
~44・47、図 171-67~69・74、図 172-85・86・91、図 173-109、図
174-120~123、図 175-149、図 176-166・167・172、図 177-194、図
178-222・224、図 179-234・236

写真無し 図 176-168、図 178-213

『報告Ⅷ』

P203 図版 22 図 155-214・215

棒状礫 1 点

『報告Ⅴ』

P145 図版 20 図 182-12

独鈷石 2 点

『報告Ⅴ』

P145 図版 20 図 179-1・2

耳飾 76 点

『報告書Ⅳ』

P121 図版 10 図 40-1~12・14~17・19、図 41-20~22・25・27~31・33~37、
図 42-38~40・42・51・52、図 43-53~55・58・60、図 44-77・79、
図 45-89・95、図 46-104、図 47-116

P122 図版 11 図 48-133・136~138、図 51-184、図 60-357、図 64-423・424・
426・427・430、図 65-432、図 66-444、図 67-462、図 68-463~468

『報告書Ⅷ』

P201 図版 20 図 118-41・51・52

P210 図版 29 図 221-15・16・18~20

玉類 38 点

土製 9 点

『報告書Ⅳ』

P122 図版 11 図 69-1~8 (1・2 勾玉、3~6 小玉、7・8 棗玉)

『報告書Ⅶ』

P179 図版 28 図 165-6

石製 25 点

『報告書Ⅴ』

P146 図版 21 図 186-1~19

『報告書Ⅷ』

P211 図版 30 図 224-11~16

貝製 3 点

『報告書Ⅵ』

P149 図版 2 図 29-116~118

牙玉 1 点

『報告書Ⅷ』

写真無し 図 236-130

貝輪 6 点

『報告Ⅵ』

p149 図版 2 図 26-86・87、図 27-93・94、図 28-107・108

骨角製品 5 点

鹿角製叉状角器 1 点

『報告Ⅵ』

p148 図版 1 図 24-60

髪飾 1 点

『報告Ⅵ』

p148 図版 1 図 22-42

オオカミの下顎骨製垂飾 1 点

『報告Ⅷ』

p203 図版 22 図 169-137

イノシシの牙製腕輪 1 点

『報告Ⅷ』

p203 図版 22 図 168-135

棒状垂飾 1 点

『報告Ⅵ』

p148 図版 1 図 22-46

注口土器 3点



40-353



112-1392



112-1393

小型(ミニチュア)土器 17点



2-1



2-2



2-3



2-8



2-12



2-14



2-16



2-17



2-18



3-26



3-30

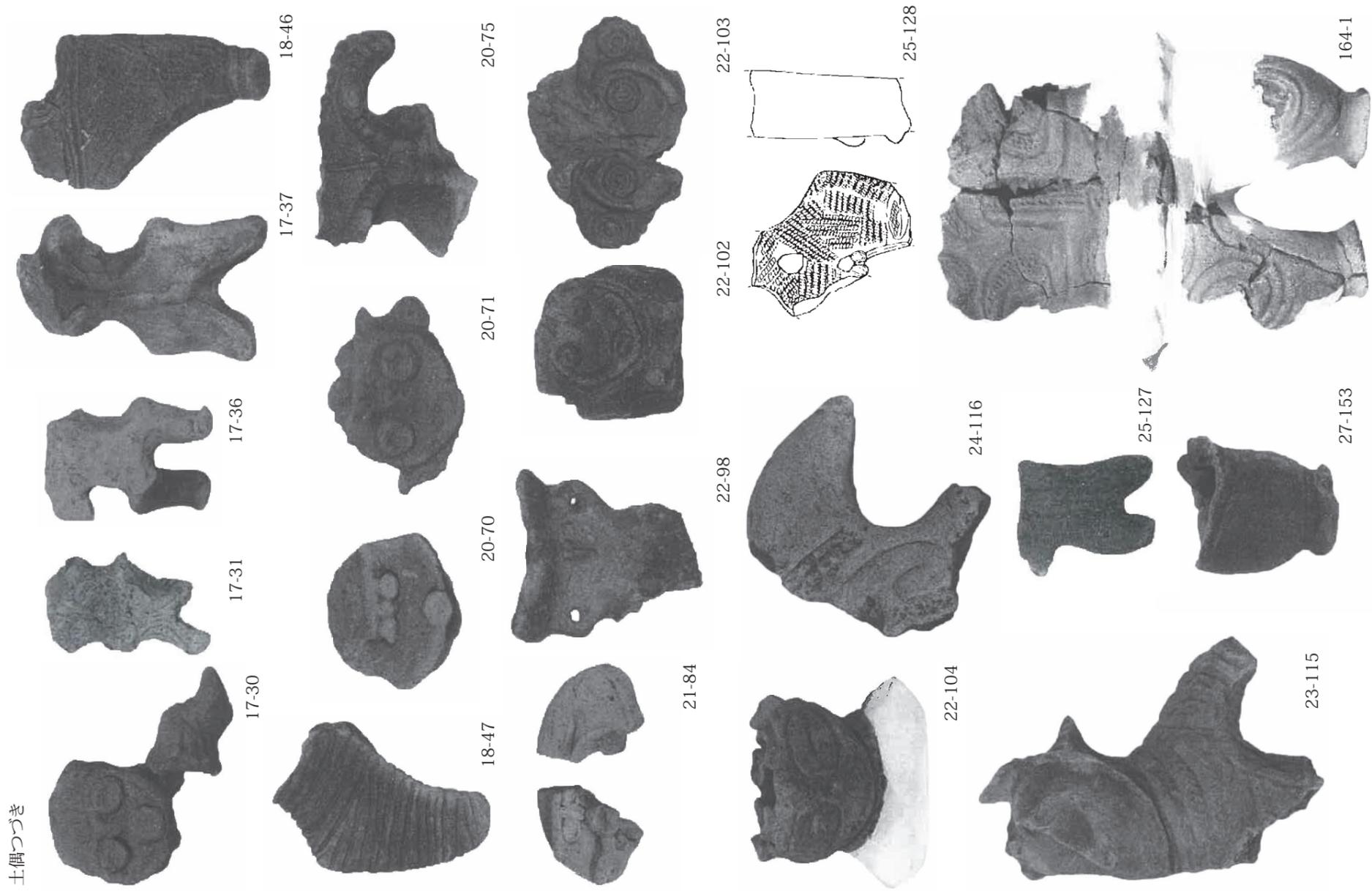


4-65



4-66

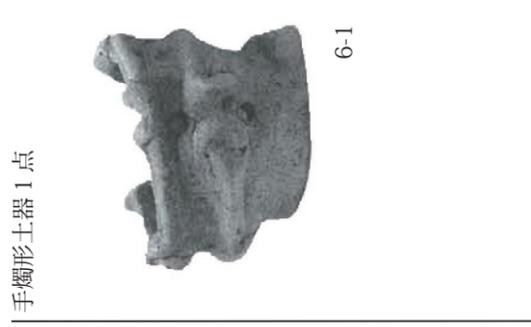
土偶つづき



小型(ミニチュア)土器つづき



手燭形土器1点



異形台付土器7点



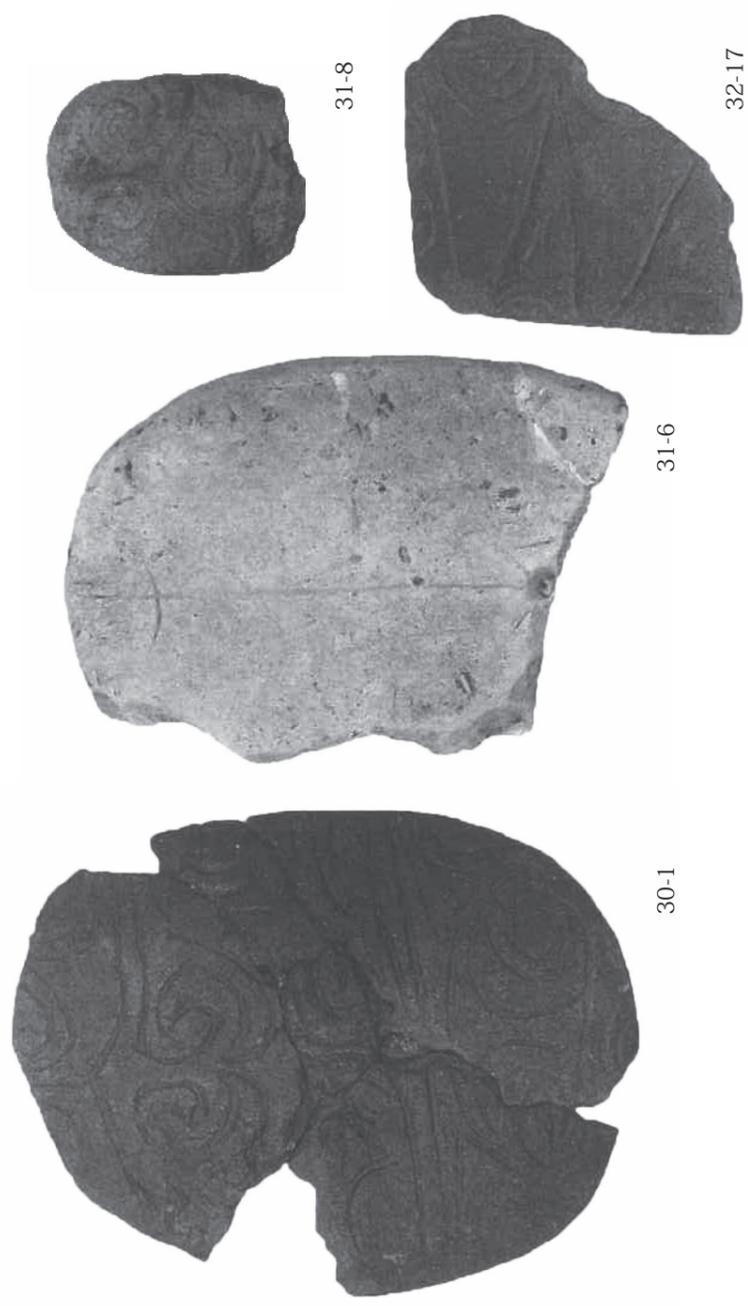
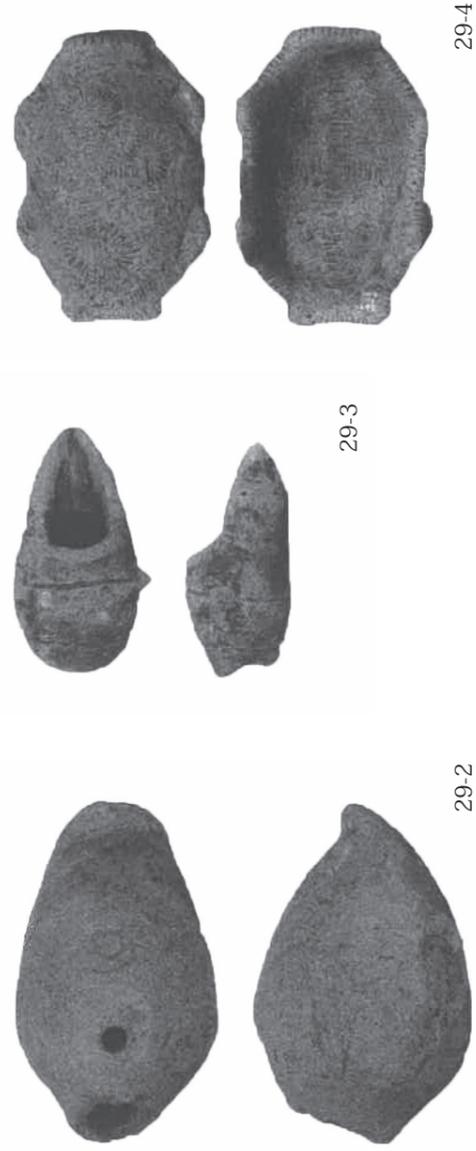
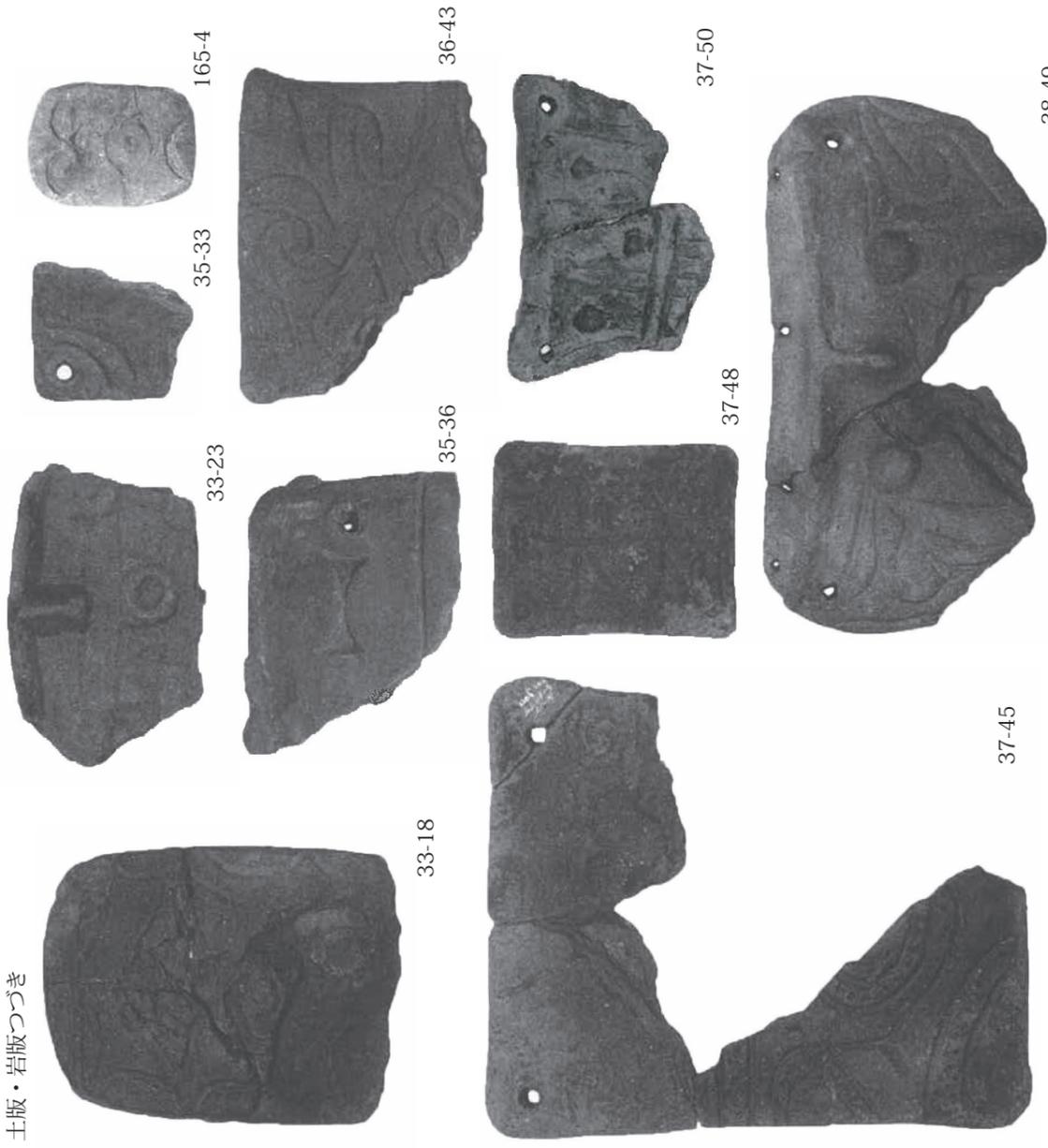
蓋1点



土偶26点



元図版80%

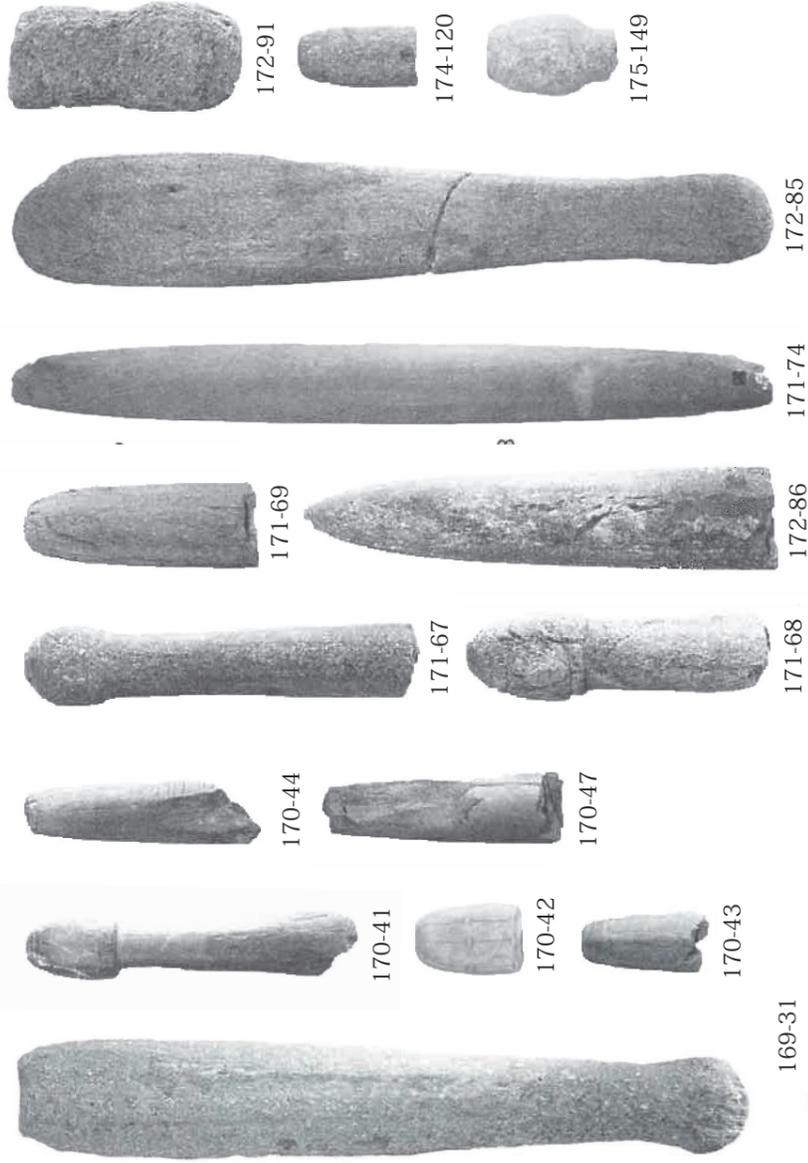


棒状礫 1点



16

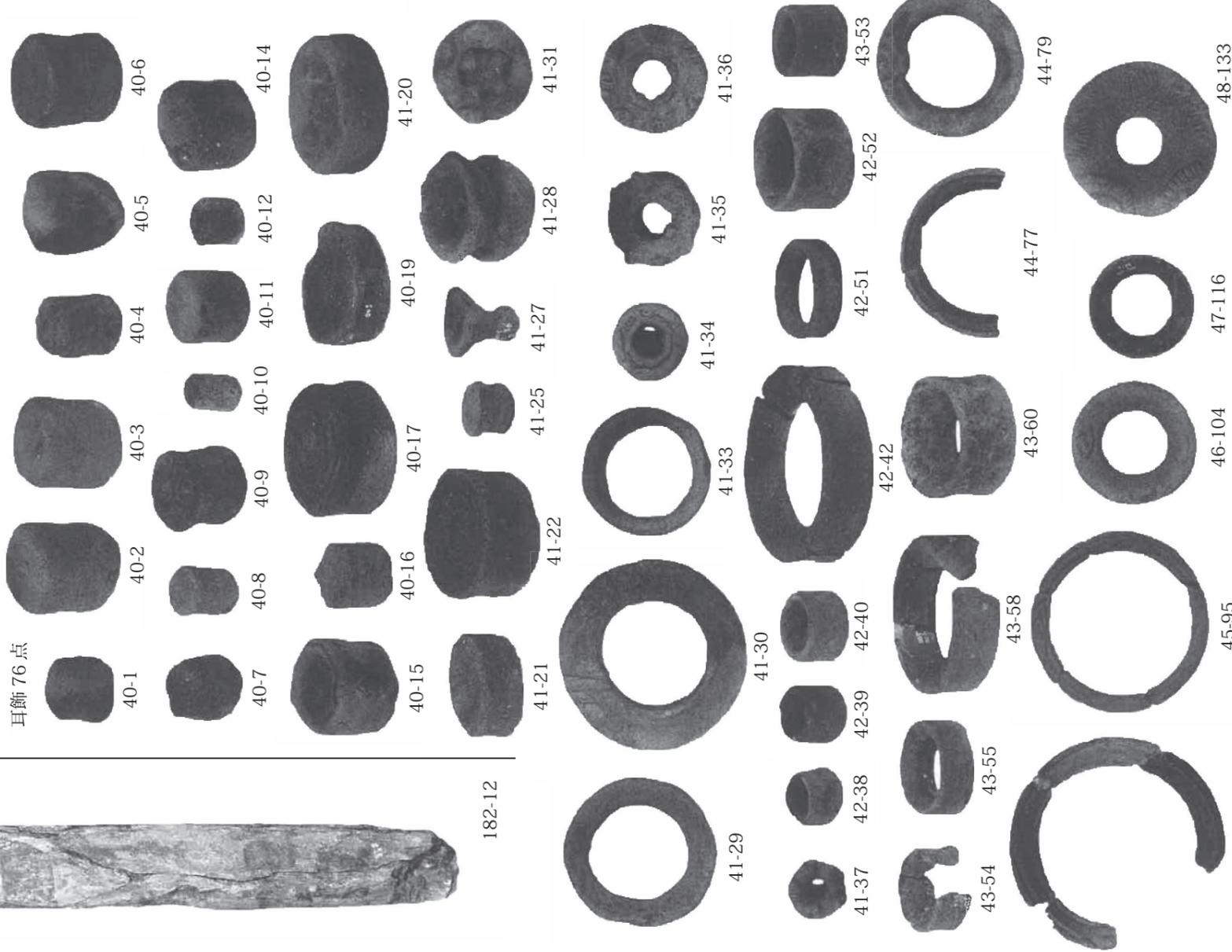
石剣・石棒つづき



独鈷石 2点

179-2

179-1

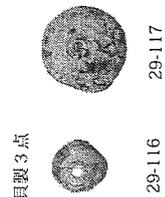


耳飾 76点

7

6

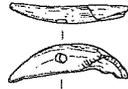
玉類つづき



貝製3点

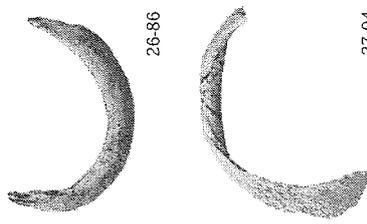
29-116 29-117

牙玉1点

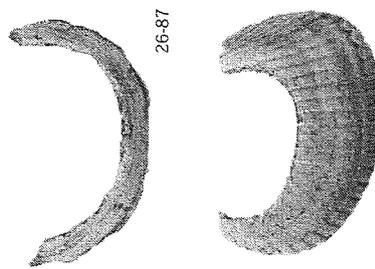


236-130

貝輪6点

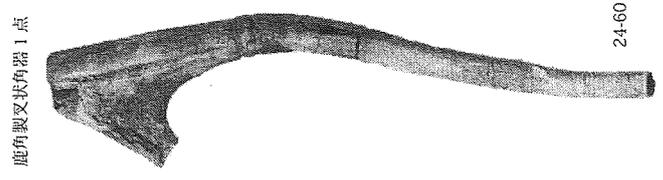


26-86 27-94



26-87 27-93 28-107 28-108

骨角製品5点



鹿角製叉状角器1点

髪飾1点

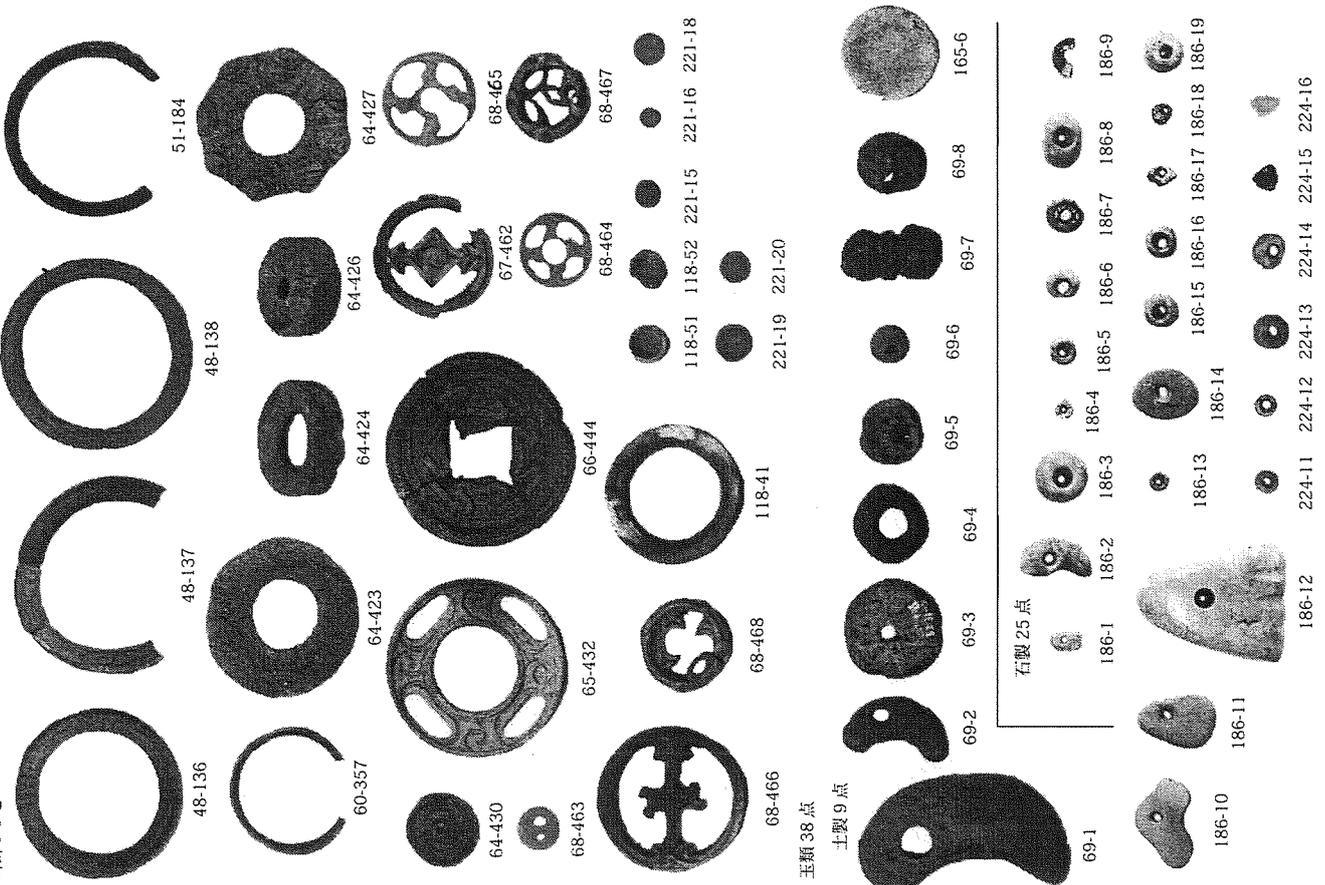
オオカミの下顎骨製垂飾1点

22-42 24-60 169-137

イノシシの牙製腕輪1点

棒状垂飾1点

耳飾つづき



48-136 48-137 48-138 51-184 60-357 64-423 64-424 64-426 64-427 64-430 64-463 65-432 66-444 67-462 68-465 68-466 68-467 68-468 69-2 69-3 69-4 69-5 69-6 69-7 69-8 69-9 118-51 118-52 221-15 221-16 221-18 221-19 221-20 224-11 224-12 224-13 224-14 224-15 224-16 186-1 186-2 186-3 186-4 186-5 186-6 186-7 186-8 186-9 186-10 186-11 186-12 186-13 186-14 186-15 186-16 186-17 186-18 186-19 165-6

玉類38点

土製9点

石製25点